

実態調査の概要

■パーソントリップ調査について

パーソントリップ調査は、交通施策などを検討する上で基礎となる「人の動き」を調べる調査です。図に示す調査圏域にお住まいの1,922万人(うち京都市147万人)の中から43万人(うち京都市3万人)にご協力をいただき、実施しました。

■調査内容について

調査は、平成12年10~11月に京阪神都市圏に居住する5歳以上の人を対象に行いました。

調査は、アンケート形式で行い、出かけるときの出発地、到着地、目的、利用交通手段、移動時間など1日の行動を記入してもらいました。

- ただし、次の動きは除いています。
- ・貨物車による物の輸送に伴う人の動き
 - ・バス、タクシー、鉄道等の乗務員としての動き
 - ・近くの路上への動きや同一建物内、同一敷地内の動き等のささいな動き

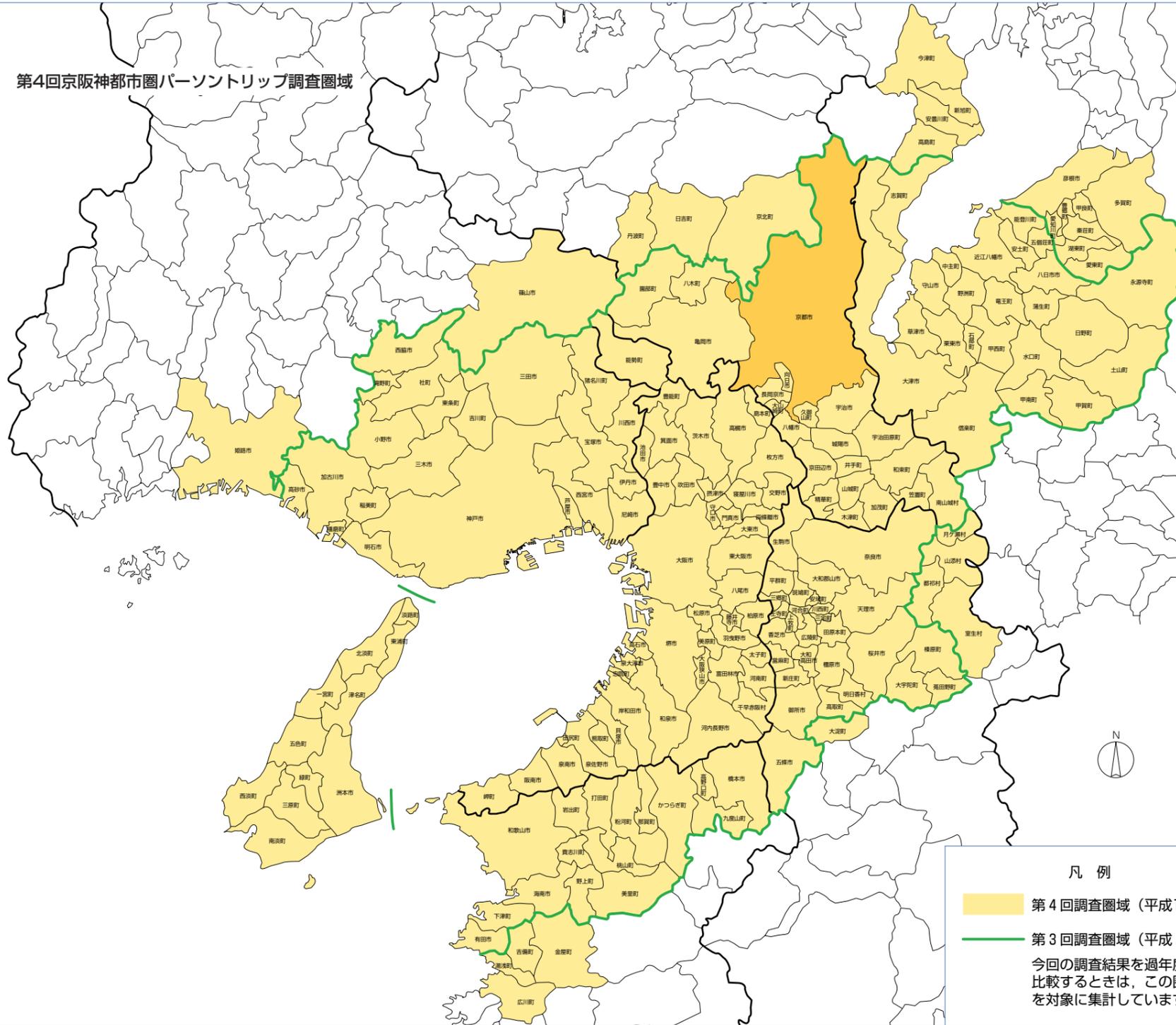
■データを見る上での注意事項

調査データには、第2回~第4回調査の年次比較を行っているものもあります。その際、調査圏域を第3回に合わせて集計していますので、第4回調査結果が他の図表での集計値と合わない場合があります。

■集計値の取扱について

集計値は、単位未満を四捨五入していますので、合計値の端数が合致しない場合もあります。

第4回京阪神都市圏パーソントリップ調査圏域



凡例
 ■ 第4回調査圏域(平成12年)
 ■ 第3回調査圏域(平成2年)
 今回の調査結果を過年度と比較するときは、この圏域を対象に集計しています。

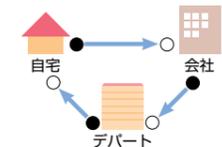
本冊子で用いる用語について

■トリップとは

人がある目的をもってある地点からある地点へ移動することを総称して「トリップ」と定義しています。1回の移動でいくつかの交通手段を乗りかえても1つのトリップと数えます。

このトリップを表す移動の単位としては「トリップ」「トリップエンド」があります。

「トリップ」は右図の一つ一つの矢印に相当します。(右図では3トリップ) また、「トリップエンド」は右図の矢印の両端(●と○)の数に相当します。(右図では6トリップエンド)



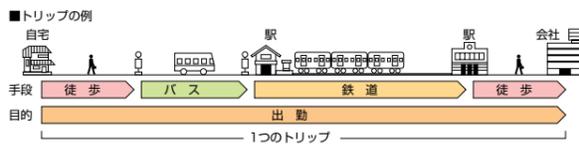
■トリップの目的とは

トリップの目的は大きく右の5つに区分されます。

- 出勤** 一日のうち最初に勤務先へ行ったトリップ
- 登校** 一日のうち最初に通学先へ行ったトリップ
- 自由** 買い物、食事、レクリエーション等、私用のためのトリップ
- 業務** 配達、会議、農作業、帰社等、仕事のためのトリップ
- 帰宅** 自宅へのトリップ

■トリップの代表交通手段とは

1つのトリップをおこなう際にいくつかの交通手段を乗りかえた場合、その中の主な交通手段を代表交通手段といい、代表交通手段の優先順位は、鉄道、バス、自動車、二輪、徒歩の順としています。下の例の場合の代表交通手段は鉄道になり、バス、徒歩は鉄道端末交通手段となります。



本冊子で用いる単位について

■生成量とは

ある地域に居住する人がおこなうすべてのトリップをその地域の生成量(単位:トリップ)といいます。その量は下の図の(A+B+C+D)トリップに相当します。

■生成原単位とは

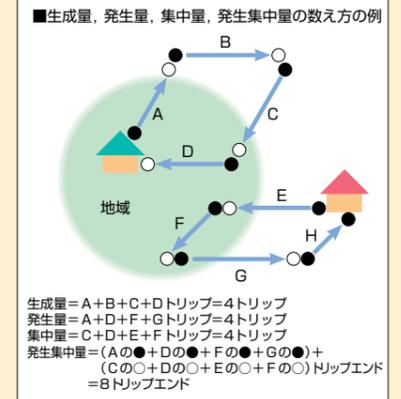
ある地域に居住する人がおこなう、一人一日あたりの平均トリップ数を生成原単位(単位:トリップ/人日)といいます。

■発生量, 集中量とは

ある地域から出発するまたは到着するトリップをその地域の発生量(単位:トリップ)、集中量(単位:トリップ)といいます。その量は下の図では、発生量が(A+D+F+G)トリップ、集中量が(C+D+E+F)トリップに相当します。

■発生集中量とは

ある地域から出発したトリップのトリップエンド数と、ある地域に到着したトリップのトリップエンド数の合計を、その地域の発生集中量(単位:トリップエンド)といいます。その量は下の図では(A+D+F+G)+(C+D+E+F)トリップエンドに相当します。



■流動量とは

ある地域からある地域へ移動する交通量を流動量(単位:トリップ)といいます。下の図では、A地域からB地域への流動量は2トリップに相当します。

